

<報告>

群馬大学留学生の大学生活における満足度とそのニーズ —群馬大学留学生基礎調査からの報告—

園 田 智 子・牧 原 功

要 旨

本調査報告は、2017年に群馬大学に在学する全留学生を対象に、大学生活における満足度及びニーズ調査を実施し、結果を分析したものである。調査の結果、85%を超える留学生が群馬大学における留学生のサポート体制に満足していると回答しており、特に職員の対応や、役立つ知識技術を学べている点を高く評価していた。一方で、経済的な支援や日本人学生との交流に関する評価は全体の中で低い傾向があり、留学生の強いニーズがあることが明らかとなった。

【キーワード】 留学生 満足度 ニーズ 交流 経済的支援 学生間交流

1. はじめに

1. 1 調査研究の背景

日本の大学における留学生受け入れ施策において、2008年7月文部科学省ほか関係省庁は、閣議決定事項「留学生30万人計画」骨子において、留学生の増加を明確な数値と方策によって目標化した。海外の有力大学の基準に倣って留学生がより円滑に来日できるように、1) 国際化の拠点となる30大学の選定と重点的予算投資、2) 英語のみによる4年制コースの設置と学位取得の可能性、3) 交換留学、単位互換、ダブルディグリーなどによる国際的な大学間の共同A連携促進、4) 専門科目での外国人教員の採用による教育研究水準の向上、5) 大学等における9月入学の促進、6) 国費留学生等の優先配置や競争的資金やGPなどによる支援の重点化などが示された。これらの施策を反映し、平成29年5月1日現在の留学生数は267,042人と、30万人に近づく勢いであり、東日本大震災を受け、一時的に停滞していた留学生数は毎年増加の傾向を見せている。群馬大学においても、平成29年度後期には300名を超える留学生が在籍しており、今後も留学生の積極的な受け入れが中長期的な目標であることから、さらなる増加が見込まれている。

このような状況の中、日本の各大学においては、各大学に在籍する留学生の実態に対する調査、大学生活における満足度、ニーズ調査等様々な調査が実施されている（菊池他1985, 金城2003, 渡辺

2005)。なかでも、広島大学における留学生調査「平成26年度広島大学留学生の学習と生活に対する支援調査結果概要報告」(以下広大調査)は、近年の留学生の実態を幅広くとらえ、また、留学生支援のニーズを明確に示している良例と言える。広大調査における広大での学習、生活に関する満足度は、特に指導教員に関して平均値4.47(5件法)と高評価である一方、カリキュラムや授業の満足度は、比較的低い結果となっていた。また、自由記述で多かったものには、「奨学金や授業料免除に関する不満、合否判定の不透明さ」「就職支援の必要性」「日本人との交流機会の少なさ」「英語情報の不足」「実践的な日本語クラスの不足」などであった。

一方、東北大学は、「2016年東北大学留学生学生生活調査まとめ」(以下北大調査)として東北大学の留学生2161名を対象にアンケートを実施しその結果を分析している。それによると、過半数の回答者が毎日の生活で英語を使用していること、日常生活では英語と日本語の使用率は同数程度であったこと、日本語を学びたいとする留学生は90%であるのに対し、履修することができている学生は47%にとどまっていることが明らかになっている。また、大学生生活の満足度については、事務窓口対応、研究者教員の質、インターネット環境などについて高評価である一方、英語での講義、奨学金制度、チューターの支援などについて不満足度が高かったとしている。さらに、学内の交流機会について、親しい友人は留学生日本人学生を含めても4名以下と少なく、80%の学生がもっと日本人学生と交流したいと回答していた。このように、留学生の満足度やニーズが、それぞれの大学で明らかになってきているが、広島大学、東北大学と本学は大学の規模も留学生の置かれた環境も異なっている。また、本学において、過去に留学生の実態調査、ニーズ調査を実施したことがないことから、今回、本学に在籍する留学生全員を対象に、その生活実態、満足度、ニーズに関する調査を実施することとした。

1. 2. 研究目的

本調査は、群馬大学の全留学生を対象に、留学生の生活実態、群馬大学における満足度及びニーズについて調査を実施し、留学生の実態とニーズを明らかにすることを目的とした。

2. 調査概要

調査では、主に選択式による質問紙調査票を独自に作成し、配布、回収し分析した。調査概要は以下の通りである。

質問紙の構造：Ⅰフェイスシート(学生の基本事項及び生活実態調査)、Ⅱ留学生の大学生生活満足度調査、Ⅲ留学生のニーズ調査、Ⅳ自由記述・その他の構成で意見を求めた。また、質問紙は英語版、中国語版、ベトナム語版を準備した。

調査時期は、2017年11月から2017年12月までで、調査方法は、質問紙調査法によって実施した。調査票は、中国語、英語、ベトナム語版を作成し、留学生が回答しやすいよう工夫した。また、調査協力者は、群馬大学に在籍する短期留学生も含む全留学生252名で、調査票を個別に配布した。配布の

際は、学内留学生事務担当及び国際センターの各教員から学生へ直接配布し、調査協力を依頼した。平成29年9月現在の在籍留学生数252名に対し、有効回答者数144名（回収率57.1%）であった。なお、フェイスシートにより収集した調査協力者の内訳は表1のとおりである。

表1 調査協力者内訳

〔国籍〕 中国：54名 インドネシア：20名 マレーシア：18名 モンゴル：15名 ベトナム：8名 その他：29名						
〔所属学部・研究科〕 理工学府：42名 医学研究科：31名 教育学研究科：3名 社会情報学研究科：7名 理工学部：33名 医学部：1名 教育学部：9名 社会情報学部：8名 不明：5名						
〔身分〕 博士課程：39名 修士課程：33名 大学院研究生：12名 学部生：25名 交換留学生：30名 不明5名						
〔年齢〕 ～19歳：1名、20歳から29歳：117名、30歳～39歳：22名、40歳～49歳：0名、50歳～1名 不明3名						
〔在日年数〕 1年未満：43名 1～2年：30名 2～3年：22名 3～4年：23名 4～5年：13名 5年以上：11名不明：2名						
〔群馬大学在籍年数〕 1年未満：56名 1～2年：29名 2～3年：20名 3～4年：18名 4～5年：10名 5年以上：4名 不明：7名						
〔結婚〕 既婚：45名 未婚：97名 不明：2名 〔子供の有無〕 子供有り同居：13名 子供有り別居：5名						
〔語学力〕 1 全くできない 2 あまりできない 3 少しできる 4 だいたいできる 5 問題なくできる						
〔日本語力〕		(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
日常的な会話をする	平均値3.09	11	40	59	19	14
講義・授業を理解する	平均値2.84	3	45	47	24	25
専門の内容の議論	平均値2.62	4	29	46	34	28
論文レポートを書く	平均値2.43	4	19	43	42	32
論文や教科書を読む	平均値2.69	4	37	44	21	33
〔英語力〕						
日常的な会話をする	平均値3.76	16	59	53	11	2
講義・授業を理解する	平均値3.59	21	64	41	11	5
専門の内容の議論	平均値3.40	17	51	52	17	5
論文レポートを書く	平均値3.34	16	48	54	17	7
論文や教科書を読む	平均値3.56	23	52	51	11	4

回答者の国籍は多い順に中国、インドネシア、マレーシア等となっており、母集団である本学の在籍留学生全体の割合とほぼ比例している。所属に関しては理工学府の回答者が最も多く、身分については博士課程の学生の回答が多くなっている。年齢は20代が117名と20代に集中しているが、30代から50代が23名と、日本人学生と比較して子育て世代も含む高い年齢層の留学生が一定数いることがわ

かる。結婚についても、45名（30％）の留学生が既婚であり、子どものいる留学生も18名おり、日本人学生とは異なった属性であることがわかる。

語学力については、留学生が学部生であるか大学院生であるかどうかで求められる語学力も異なっているが、全体的には日本語よりも英語能力が高い傾向にあり、「講義授業を理解する」という項目では、日本語で問題なく理解できる、ほぼ理解できると回答した留学生は48名で35％に満たないが、英語では85名と60％を超えている。また、日本語力について、「講義授業を理解する」「専門の内容について議論する」「論文や教科書を読む」「論文レポートを書く」のいずれも、問題なくできると回答した留学生は3、4名と極めて少なく、学部学生であっても大学で学ぶためのアカデミックレベルでの日本語力が不十分であることがうかがわれた。

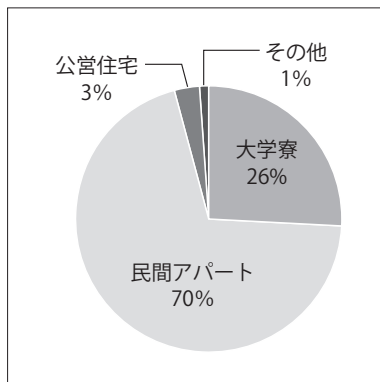
3. 調査の結果

ここでは、本調査の結果を1. 留学生の生活実態、2. 留学生の満足度、3. 留学生のニーズの3つに分けて述べる。

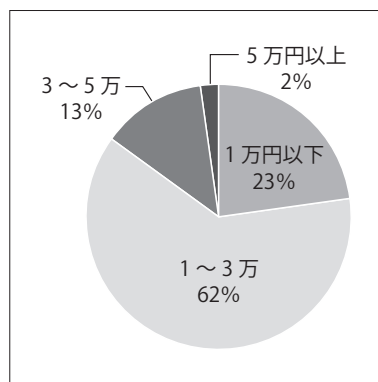
3. 1. 留学生の生活実態について

まず、住居については、70％が民間アパートを利用しており、大学寮を利用している留学生は全体の26％であった（グラフ1）。

グラフ1 住居形態



グラフ2 家賃



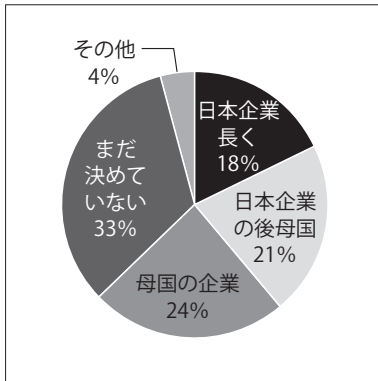
家賃は月額1～3万円と回答した留学生が多く、大都市圏と比較し安価な家賃で生活していることがわかる（グラフ2）。通学時間は15分以内が最も多く、30分以内を合わせると60％以上の学生は大学周辺に居住していることがわかる。本学は、大学の所在地が電車

など公共の交通機関を利用しにくいことなどから、留学生にとって大学周辺の住居を確保することは非常に重要なことであると考えられる。

奨学金の利用については、全体の48％の留学生が奨学金を利用していると解答しており、中でも国費あるいは母国政府派遣の奨学金を利用している留学の割合が高い（グラフ3）。民間団体の奨学金を獲得している留学生は13名（18％）と少なく、民間団体の奨学金獲得の難しさがうかがわれる。アルバイトについては65％の学生がしていないと回答している。

さらに将来の進路希望についてたずねたところ、「日本企業で長く働く」「日本の企業で働いた後母国

グラフ 3 将来の進路希望



の企業で働く」と回答した学生は55名で全体の40%であった。

しかし、46名（33%）の学生は「まだ決めていない」と回答していた。

最後に、留学情報の入手についての解答で最も多かったのは「出身大学からの紹介」（51%）で、次に多いのは「友人知人の紹介」（19%）、日本語学校の情報（15%）、大学のホームページ（15%）となっている。留学フェア等についてはわずか1%であり、現在もなお、紹介による口コミの情報力が強いこと、ホームページなどオンラインによる情報が重要な情報源となっていることが示唆された。

3. 2. 留学生の満足度について

次に、留学生の満足度について調査した。項目別によるその傾向を述べる。

Q21からQ44まで、各項目について、「1 そう思わない」、「2 あまりそう思わない」、「3 どちらともいえない」、「4 そう思う」、「5 大変そう思う」の5段階で回答を求めた（表2）。

表2 留学生の満足度

	平均値 (標準偏差)	1	2	3	4	5
Q21大学の留学生へのサポート体制は十分である	4.2(0.73)	1	0	19	65	57
Q22入学時のオリエンテーションに満足している	4.0(0.88)	3	3	26	65	45
Q23ホームページから必要な情報が収集できている	3.6(0.99)	3	1	46	49	332
Q24必要な情報は適切に迅速に入手できている	3.9(0.82)	1	6	29	70	38
Q25事務の人の対応は適切である	4.3(0.68)	0	1	13	58	71
Q26現在の住環境に満足している	3.9(0.88)	3	3	33	65	38
Q27経済的な面で、現在の生活に満足している	3.6(1.06)	7	6	36	57	30
Q28総合的に、現在の日常生活に満足している	3.9(0.83)	3	2	26	74	36
Q29日本語を勉強する環境が整っている	3.7(0.90)	1	9	43	55	34
Q30カリキュラムは希望した通りのものである	3.7(0.77)	2	3	40	76	21
Q31専門の授業の内容は分かりやすい	3.4(0.97)	6	1	47	58	174
Q32自分の関心のあることが勉強・研究できている	3.8(0.85)	2	6	32	70	32
Q33将来役に立つ知識や技能を習得できている	4.0(0.70)	0	2	23	76	41
Q34学習・研究のレベルは期待するものである	3.9(0.70)	0	2	32	77	31
Q35指導教員の指導は適切である	4.2(0.72)	0	1	21	63	57

	平均値 (標準偏差)	1	2	3	4	5
Q36チューターは必要な手助けをしてくれる	3.8(1.01)	5	8	25	59	42
Q37総合的に群馬大学の授業や研究に満足している	4.0(0.79)	2	2	26	75	37
Q38良い先生と友人に恵まれている	4.2(0.70)	0	2	16	68	56
Q39日本人学生と交流の機会が十分にある	3.5(0.97)	5	1	47	55	223
Q40他の留学生と交流の機会が十分にある	3.8(0.91)	1	1	28	66	333
Q41困ったときに相談できる人がいる	3.9(0.83)	2	4	29	71	35
Q42地域住民との相互交流がある	3.5(1.01)	5	1	36	61	219
Q43出来れば他の大学へ移りたい	2.3(1.17)	46	3	39	15	75
Q44他の人にも群馬大学への留学を勧めたい	4.0(0.82)	1	2	31	59	48

その結果、「Q21留学生のサポート体制は十分である」については、 $M=4.2$ 、($SD=0.73$)で、86%の学生がそう思う、大変そう思うと回答している。その他、それぞれの項目について平均値が4.0を超えた項目は、「オリエンテーション」「情報の入手」「住環境」「総合的な生活」「関心のあることを勉強している」「望んでいる学習レベル」「担任・指導教員の指導」「チューター」「授業研究に対する満足」「留学生間交流」「相談できる人」などで、多くの項目が該当した。特に、「事務官の対応」「指導教員」「よい友人に恵まれている」の3項目は評価が高く、群馬大学留学生が大学の教職員や友人に支えられ、本学での生活に概ね満足していることがわかる。

一方、やや評価が低かった項目は、「ホームページからの情報収集」($M=3.6$, $SD=0.99$)「経済面」(平均値3.6, $SD=1.06$)「専門授業内容のわかりやすさ」($M=3.4$, $SD=0.97$)「日本人学生との交流」($M=3.5$, $SD=0.97$)「地域住民との交流」($M=3.5$, $SD=1.01$)の5項目だった。留学生が、経済面や情報収集といった制度的側面での困難さ、学業面での難しさ、また、交流面での困難さを感じていることがわかる。

最後に「他大学へ移りたいか」という質問に22名(16%)の留学生がそう思う、大変そう思うと回答している一方、81名(57%)の留学生はそう思わない、全くそう思わないと回答している。また、「他の人に群馬大学をすすめたか」という質問には76%の留学生がそう思う、大変そう思うと回答していた。

3. 3. 留学生のニーズについて

次に留学生のニーズについて調査した。項目ごとにその傾向をまとめる。

Q45からQ59まで各項目について「1 そう思わない」、「2 あまりそう思わない」、「3 どちらともいえない」、「4 そう思う」、「5 大変そう思う」の5段階で回答を求めた(表3)。

表3 留学生のニーズ

	平均値 (SD)	1	2	3	4	5
Q45 入学時のオリエンテーションを充実させてほしい	3.7(1.02)	3	16	32	55	35
Q46 大学独自の留学生向け奨学金を作してほしい	4.4(0.77)	2	1	9	42	87
Q47 就職の支援を充実させてほしい	4.2(0.78)	0	3	22	58	58
Q48 事務手続きを英語化してほしい	3.9(1.06)	4	7	41	33	56
Q49 事務手続きを簡素化してほしい	4.2(0.79)	0	3	21	48	69
Q50 大学のホームページや情報発信を充実させてほしい	4.2(0.83)	0	3	28	47	62
Q51 大学寮を充実させてほしい	4.1(0.92)	0	3	30	25	49
Q52 日本語クラスをもっと充実させてほしい	4.0(0.92)	2	5	30	52	52
Q53 英語で授業を受けられる講義を増やしてほしい	3.9(1.09)	7	6	30	45	53
Q54 担任指導教員にもっと指導支援をしてもらいたい	4.0(0.82)	0	5	28	59	49
Q55 チューター制度をもっと充実させてほしい	4.0(0.92)	2	4	31	47	56
Q56 もっと日本人学生と交流する機会が欲しい	4.3(0.77)	2	0	14	55	70
Q57 もっと留学生同士で交流する機会が欲しい	4.2(0.79)	0	2	26	53	60
Q58 相談できる場や専門家を増やしてほしい	3.9(1.00)	3	7	39	44	48
Q59 地域住民との交流の機会を増やしてほしい	4.0(0.90)	2	2	37	49	51

その結果、平均値が4.0を超える項目は、その値の高い順に「独自の奨学金 ($M=4.4$, $SD=0.77$)」「日本人学生との交流 ($MD=4.3$, $SD=0.77$)」「事務手続きの簡素化 ($M=4.2$, $SD=0.79$)」「就職の支援 ($M=4.2$, $SD=0.78$)」「留学生同士の交流 ($M=4.2$, $SD=0.79$)」「ホームページの充実 ($M=4.2$, $SD=0.83$)」「大学寮の充実 ($M=4.1$, $SD=0.92$)」「日本語クラスの充実 ($M=4.0$, $SD=0.92$)」「担任指導教員の指導 ($M=4.0$, $SD=0.82$)」「チューター制度の充実 ($M=4.0$, $SD=0.92$)」「地域住民との交流 ($M=4.0$, $SD=0.90$)」となっている。これらの結果から、全体的な大学生活への満足度が高いこととは別に、留学生が大学に求めるニーズが明確になった。最もニーズの高いのは、大学独自の奨学金であり、事務手続きやホームページなど制度的な部分でのニーズも高い。また、日本人学生との交流や留学生間交流、地域交流など学内外の交流にも強いニーズがあることがわかった。

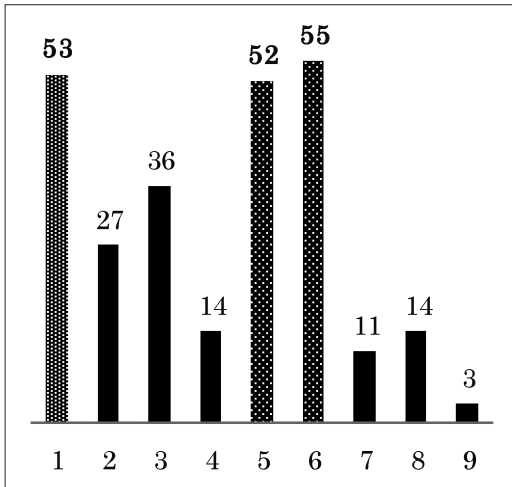
4. 留学生支援について

さらに、留学生支援について調べた。その結果をまとめる。

まず、現在留学生が困っていることをたずねた。「就職」「進路」「学習」がそれぞれ20%程度であった。これらはいずれも青年期の学生の直面する課題であり、日本人の学生と共通する部分であることがわかる。一方で、言葉や習慣についての困難(4%)、心理的問題(5%)と留学生特有の問題やメンタルヘルスに関する困難を感じている留学生も一定数おり、留学生相談にスムーズにつなげる

ことが今後の課題である。

グラフ4 現在困っていること



- 1 学習・研究について
- 2 人間関係について
- 3 経済的な問題について
- 4 家族の問題について
- 5 進路について
- 6 就職について
- 7 言葉や習慣について
- 8 心理的問題について
- 9 身体について

また、学内の相談機関の認知度について尋ねたところ、健康支援総合センターのカウンセリング、各キャンパスの臨床心理士による学生相談については、知っていると回答した留学生はいずれも66%であり、利用経験のある留学生は11名、10名と少数であった。一方、国際センターの留学生相談は、知っていると回答した学生が85%であり、利用したことがあると回答した学生も20名（15%）いた。通常日本人学生向けの学生相談室の一般的な利用率は5%程度と言われており、国際センターの相談室が認知され、また、留学生の気軽に相談できる場所として活用されていることがわかった。一方、ハラスメント相談に関しては65%が知らないと回答しており、認知度が特に低いことがわかった。

また、新入留学生オリエンテーションで必要な情報、活動についてたずねたところ、最もニーズの高い順に、「奨学金情報」「アルバイト情報」「先輩や日本人学生との交流」「日本語クラス案内」表4 オリエンテーション時に必要な情報 「チューター制度」「地域生活情報」などがあげられた。本

1	奨学金情報	89
2	アルバイト	82
3	先輩や日本人との交流	79
4	日本語クラス案内	77
5	チューター制度	76
6	地域生活情報	75
7	ピザ情報	68
8	キャンパス案内	61
9	サークル・交流案内	56
10	防災情報	54
11	留学生相談	51
12	履修相談	48
13	危機管理	44

学における新入留学生オリエンテーションでは主に、大学の履修案内や日本語クラスの紹介、必要な事務手続きや危機管理に関する情報提供などに充てられており、留学生の求める項目が十分に網羅されているとは言えず、今後オリエンテーションを運営する際の重要な示唆となった。

最後に、アンケートの自由記述欄に留学生の希望を書いてももらった。その主な内容を以下にまとめる。

■情報収集・ウェブサイト等

- ・特に英語のホームページの充実がされると助かります。
- ・ホームページからアクセスする教務システムをもっと詳

細にしてほしい。

- ・もっと就職情報が欲しいです。
- ・勉強に役に立つ情報（レポートの書き方、過去問など）を手に入れやすくして欲しい。

■英語による授業について

- ・PhDの学生には全ての講義が英語で行われるべきである。これは当大学の弱点であり、博士課程の授業は全て英語で行われると言われたのに実際に日本語で講義を受けるのはフェアでないと感じている。
- ・先生はやさしいし、クラスもいいです。でも私は日本語がうまくないし、日本人の先生は話すのが早いので、よく日本語を理解できません。クラスが英語で受講できるか英語で先生に質問できるといいです。
- ・英語課程がより多くほしい。

■授業料免除・奨学金・経済的支援について

- ・PhD学生の授業料免除をもっと積極的におこなってほしい。入学前に免除になるかどうかを知りたい。
- ・ウェブサイトは全ての項目が英語で利用できるようにするべきである。
- ・奨学金が来年の四月から月10万円に減額されてしまい、それは私と私の家族にとってとてもつらいです。
- ・奨学金（JASSO）が欲しい。
- ・奨学金があれば、ヨーロッパからの学生も増えてくるかも知れない。

■事務書類・大学内手続き

- ・もし可能であれば、事務手続きの書類が英語版が用意されているとうれしい。
- ・全てのeメールも英語でやりとりするべきである。

■日本語の授業について

- ・日本語の授業がもっと分かりやすく、進度が早いもの、またレベルの高いものがない。そして日本語能力テスト（JLPT）のための対策が授業でできるとよりよい。
- ・留学生のために、日本語の授業と同じ内容で英語による授業があると良いと思います。
- ・JLPT試験を受験する学生のためのクラス、留学生のための図書室がほしいです
- ・J3、J2、J1レベルの講義が欲しい。
- ・より高いレベルの日本語を勉強したいです。
- ・研究生向けの日本語課程が欲しいです。論文作成に関する指導が欲しいです。
- ・留学生が日本語を学習するため、課外時間に日本語クラスを開催してほしいです。

■住居・寮について

- ・留学生用のもっと大きな学生寮があるとうれしい。
- ・もっと快適で便利な寮がほしいです。女子にとって、男性の棟でシャワーを浴びるのは大変です

(シャワールームはB棟で、きたないです)。部屋でお湯が使いたいです。とにかく、清潔なシャワー、キッチン、お湯(冬に)が欲しいです。お湯でお皿が洗えるだけで便利です。

- ・留学生会館からキャンパスまではとても遠くて不便です。そしてバスの料金がとても高いです。
- ・民間アパートの整備がもっと整ってほしいです。机椅子とこたつを増やしてほしいです。
- ・学生寮の申し込みが許可されない学生に、もっと民間アパートの情報を提供してほしいです。

■学生間交流・友人作り

- ・大学での交流イベントや社会的な生活がとても乏しい。
- ・どんなものでも構わないが、大学外のクラブ活動や、勉強会などの情報がわかるとうれしい。
- ・日本人学生と留学生間でコミュニケーションに対する隔たりをなくすイベントをより多く企画すべきだ。
- ・日本人の友達はあまりいません。友達を作りたい。・同じ興味を持っている人との交流の機会がほしい。

■国際交流・日本文化理解

- ・日本料理の作り方とかを勉強したいです。ほかの日本文化を体験する活動も多ければよいです。
- ・日本人はもっと国際交流を深めるべきだ。そしてもっと他国と共に発展するため英語を導入すべき。
- ・日本のルールについて知りたいです。例えば、ゴミの分別処理方法、牛乳パックの処理等。
- ・日本のルールやマナーについて知りたいです。例えば、研究室で何が嫌われるか、失礼になるか。

■その他

- ・何らかの科学的またはその他の必要なトピックについて自由に、または公の場で発表するような大きなミーティングを毎学期企画するべきである。
- ・留学生が自分の希望する研究室に入れるといいと思います。
- ・キャンパスに近い運動場が欲しい。
- ・教授たちは忙しすぎて、他の大学へ行ったり、他のプロジェクトに行ったりと、こちらからのEメールに返信しないこともある。学生たちが見放されている。
- ・日本人は働きすぎである。さらに、彼らは留学生たちに技術的解決策を求めて週末のカンファレンスや会議に出席することを強制しており、それはさらなる仕事を生んでいる。

5. 考察と今後の課題

以上の調査結果をまとめ、今後の留学生支援に関して考察する。

今回の調査で、群馬大学の留学生の80%程度が大学の留学生に対する支援について満足しており、特に大学教職員のサポートや学習研究内容が高く評価されていることがわかった一方で、ニーズ調査の部分からは、留学生が経済的な支援をより必要としていること、また、学内外における交流活動を

強く求めていることも明らかになっている。以下、この2点に焦点をあて、今後考えられる支援策について提言する。

1) 大学独自の経済的支援について

大学独自の奨学金を有する広島大学や東北大学でも、奨学金の問題は大きな問題となっていた（広島大学2014；東北大学2016）。群馬大学に留学する留学生も、その多くが、アジア地域からの留学生で、本国と日本の間に経済格差のある国からの学生が多い。そのため、留学生の多くが学費の全額免除、あるいは半額免除を受けている。また、日本学生支援機構の支給する学生奨励費や、文部科学省から支給される日本政府留学生奨学金など公的な奨学金の応募のとりまとめや推薦を行っている。さらに、民間団体による奨学金の応募についても支援している。しかし、実際に公的な奨学金、民間団体の奨学金を獲得できる留学生は全体の一部分でしかなく、多くの留学生は日本での生活費を自分自身でなんとか賄いながら私費留学生として留学生活をおくっている。こういった留学生の多くが大学院生であり、理系博士課程に在籍する学生が多いため、日本でアルバイトをしながら研究活動を行うことは難しい。さらに、地域的にアルバイト先が見つげにくいという問題や、日本語力不足の問題もあって、実際にアルバイトをしている留学生の数はそれほど多くない。こういった状況の中で、大学独自の留学生向け奨学金を希望する留学生が多いことは十分考えられる。

全国の大学の状況を見てみると、「新潟大学基金（国際交流活動の支援）「外国人留学生に対する奨学事業」や、「金沢大学留学支援制度スタディ at KU 奨学金」、「外国人留学生を援助する会奨学金（広島大学）」など、他大学においては、優秀な外国人留学生獲得のために、大学独自の奨学金制度を整えている大学が増加してきている。本学においても、留学生のニーズに着目し、今後早急に大学独自の奨学金制度の整備を進めていくべきだろう。

2) 交流機会の創出について

広大調査、東北大調査でも、学内における交流機会の不足は留学生の満足度の低い部分であることが明らかとなっていたが、今回、群馬大学の満足度調査、ニーズ調査においても、留学生が学内外での交流に強いニーズを持っていること、現在の交流機会の不足を感じていることが明らかになった。特に日本人学生との交流の機会が少ない、もっと交流したいと感じている留学生の多さが顕著であった。横田・白土（2004）は、「留学生は日本人学生や地域住民と親しく交流しているかと言えば、それは一部の留学生に限られている」とし、大学では学習、研究に重きを置き、留学生の学内外の交流の意義や効果が軽視されがちだと指摘している。近年、日本人学生の国際化が大きな課題となる中で、留学生との交流は、いよいよ重要な活動の一部となってくるだろう。

本学では、これまで、地域における交流支援については、地域の小中学校や国際交流団体との連携によって、ホストの紹介や文化紹介などのプログラムを行ってきた。しかし、日本人学生との交流については、国際交流サークルが自主的に行う活動や、チューターなど学習支援を中心にしており、十

分な取り組みとはいえないのではないだろうか。今後、日本人学生と留学生の交流活動について、大学として制度的に取り組んでいく必要がある。一つは、カリキュラム内で国際共修科目を整備、拡大していくこと、さらに、カリキュラム外での国際交流機会の創出を図ることが重要である。そしてまた、単に留学生と日本人学生と一緒に居る機会を持つだけでなく、スムーズに交流が促進されるよう、また、その交流が継続的に行われるような仕組み作りが求められていると言える。

<参考文献>

- 菊池靖・小西久也・関正昭（1985）「東海大学留学生の実態について—留学生生活実態調査の報告—」
- 金城かおり（2003）「琉球大学における留学生支援体制と留学生の満足度—「帰国留学生アンケート調査」及び「留学生アンケート調査」を基に—」『琉球大学留学生センター紀要『留学生教育』第1号，2003
- 深見兼孝・田村泰男・石原淳也・中矢礼美・堀田泰司・恒松直美・本田義央（2014）「平成26年度 広島大学留学生の学習と生活に対する支援調査結果概要報告」『広島大学留学生教育』19号，58-148.
- 渡辺淳一（2005）「山口大学留学生の生活実態調査—現状の分析と課題—」『大学教育』第2巻，67-84.
- 横田雅弘・白土悟（2004）『留学生アドバイジング 学習・生活・心理をいかに支援するか』ナカニシヤ出版
- 東北大学（2016）「2016年度東北大学留学生学生生活調査まとめ」
http://www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/wp-content/uploads/2017/10/J_International_Students_Survey_-2016.pdf
- 文部科学省，外務省，法務省，厚生労働省，経済産業省，国土交通省（2008）「留学生30万人計画骨子」
<http://www.kantei.go.jp/jp/tyoukanpress/rireki/2008/07/29kossi.pdf>

Survey on International Students Needs and Satisfaction-rates of the
university life of Gunma University international students
— A report on the basic survey of Gunma University's international students —

SONODA Tomoko, MAKIHARA Tsutomu

This survey report analyzes the results of all international students enrolled in Gunma University in 2017. In the survey, the main focuses were satisfaction level and needs in university life.

As a result of the survey, more than 85% of international students responded that they are satisfied with the support system of international students at Gunma University, especially highly appreciating the responsiveness of the staff and learning useful knowledge technology.

Meanwhile, evaluation on economic support and exchange with Japanese students tends to be low in the whole, and it became clear that international students have strong needs for them.

Through this survey, it became clear that there are two points to be addressed in the future, such as developing university's own economic support measures and creating opportunities to exchange with Japanese students.